

80名超の参加者で埋め尽くされた四万十市立文化センター大会議室



二日目は、元四万十市長の田中全さんによる記念講演「幸徳秋水の思想と風土 秋水はなぜ高知ではなく中村に生まれたのか」がおこなわれました。四万十市教育委員会編「自由・平等・博愛 幸徳秋水その生涯」という冊子などをもとに、町人のまち中村に生まれ育った幸徳秋水の生い立ちや家系、予は如何にして社会主義者となりし乎」という言葉などが紹介され、さらに1946年の墓前供養から始まった顕彰運動が語られました。



2日目の記念講演の様子

つづいて、ホテルから歩いて幸徳秋水の墓や2021年の生誕150年・刑死110年にあたって建立された非戦の碑へのフィールドワークには20名以上が参加し、講演とあわせて、幸徳秋水の生きた時代と現代を重ね合わせながら、その思想を学ぶ意義が確認されました。



幸徳秋水の墓を案内する田中全さん

11月5日、こうち九条の会・女性九条の会主催の「憲法公布76周年 県民のつどい」が、高知県人権啓発センターで開催されました。九条の会事務局長の小森陽一さんによる講演「憲法九条をめぐる動きと日本の針路」改憲させないためのあらたな取り組みを〜」があり、会場は150人の参加者でいっぱいでした。講演は次のような内容でした。

○2000年代に入り小泉政権で、自衛隊を戦争ができるようにしていき、憲法改正の動きが強くなってきたこと。

○作家の井上ひさしさんや評論家の加藤周一さんたちの対談をはじめ、2004年に作家が中心となり「九条の会」を結成したこと。

○安倍政権のもと、2015年に「安全保障関連法」が成立し、集団的自衛権の行使が可能にし、自衛隊がアメリカとともに戦争できるようにしたこと。

○安倍政権や改憲勢力が旧統一教会（国際勝共連合）と癒着し、改憲を推し進めてきたこと。

○自衛隊を「安保法制」を背負った組織として憲法に明記しようとしている。自衛隊を憲法に明記すると、意味が違ってきて、憲法九条は亡きものになる危険性があること。

○岸田政権は、敵基地攻撃能力を保有し長射程ミサイル「トマホーク」を購入しようとしていること。

講演後、質疑応答があり、北朝鮮からの弾道ミサイル攻撃に関する「アラールシステム」が乱発されていることについて、国民の脅威を煽っている意図的に操作されているので、批判していくことが必要だと話がありました。

憲法公布76年県民のつどい

改憲させないための新たな取り組みを

事務局の方々が活躍されました。本会にお疲れ様でした。また、幡多支部の会員の皆さんには参加、諸準備に大変お世話になりました。ありがとうございました。（田中正）



小森陽一さんの講演の様子

(宮地由美)